

## 高岡市教育将来構想市民懇談会 各校下での主な意見等の状況について

### ■高岡西部中学校区【平成 30 年 12 月 16 日】

- ・本地区には西高というハードウェアがある。西条小は西高に隣接しており、また西条小は3校区の概ね中央に位置していることから、総論としては賛成である。早めにゴール地点を想定して、地域住民と話し合いながら進めてほしい。
- ・小学校統合により、今より更に遠くなる子どももいると思う。そうした子どもを持つ親からすると、スクールバスの話は興味があり、是非検討してほしい。
- ・子どもを育てる親の気持ちに沿った政策をとり、子育てができる環境づくりに取り組んでほしい。学校再編の機会に、人員が揃うのであれば学童保育にも目を向けて取り組んでほしい。
- ・北島地区に関しては、国吉にも五位にも近い。小学校や中学校を自由に選択できればよい。
- ・小学校が統合されるということであれば、全国に先立ったような教育を取り入れてほしい。英語は必須だが、コミュニケーション能力も必要である。
- ・PCやAIなどを扱う能力を伸ばしていくことも必要ではないか。他の自治体では一人一台タブレットという話も聞いており、高岡でそうした取り組みもあっていいのではないかと思う。使えて当たり前という時代にするべきだと思う。
- ・早急に日程を示してほしい。その際には、グラウンドやプールも含めた跡地活用を検討してほしい。仮に西高と西条小を一体的に使うとなった場合、横田小や高岡西部中を第2、第3グラウンドとして使うという考えもある。
- ・子どもたちが安全に通学できるよう、スクールバスの運行については、単純に校区で分けるのではなく、距離で分けるなど、平等な対応をお願いしたい。

### ■国吉中学校区【平成 30 年 12 月 18 日】

- ・小中一貫校と義務教育学校の違いを教えてほしい。義務教育学校というものがどのようなスタイルなのか不安を感じている。色々なメリットについて説明もあったが、デメリットもあるのではないかと思う。
- ⇒義務教育学校は平成 27 年度に国が新たに創設した制度であり、現在、全国で 100 校程度設置されている。義務教育学校になれば、校長を 1 人配置し、児童生徒は初等部・中等部、あるいは前期課程・後期課程といった形の区切りをつけて運営することになる。デメリットとして一般的に言われているのは、通常、小学校を卒業して中学校に入学する際は一定の緊張感があるが、その区切りがなくなると、メリハリがなくなるということである。また、教員も従来の小学校、中学校の枠を超えて指導を行うことになるため、調整の時間が増えるということも課題として挙げられている。
- ・国吉は小学校と中学校が隣接し、小中一貫校としてハード的にやりやすいと思う。住民として危惧するのは、小規模校であるということである。大規模校に比べて学力、部活動が見劣りする。特にサッカー、野球といった集団スポーツができない環境についてどう考えるか。
- ⇒部活動については、合同部活動に取り組んでいるところもある。また、それぞれ特色ある活動や種目、伝統というものもある。外部からの指導を受けられるような体制について、国でも推奨しており、本市でも進めていきたい。中でも頑張りたいという子どもがいれば、外部のスポーツクラブを活用できないかということについて、体育協会や競技連盟と協議しながら模索しているところである。
- ・市内初の義務教育学校として、県内の中でも魅力ある学校で、国吉を見れば参考になると言われるようなモデル校にしてほしい。
- ・ゆとりある小中一貫教育に取り組んでほしい。また、義務教育学校は全国に 100 校程度ということだが、先進事例では問題があったことなどもあると思う。そうしたことも参考にしながら進めてほしい。
- ・方向性についてはあるべき姿なのだと思う。一辺倒の教育ではなく、英語、音楽、ICT 教育など特色あ

る学校にし、他の地区から人が呼べるような学校にしてほしい。

### ■伏木中学校区【平成 30 年 12 月 20 日】

・3小学校と中学校が1つの校舎になるのかということを知りたい。そうなるのであれば、その校舎の場所がどこかも知りたい。

⇒長期的には1つの学校になる方向を考えている。地元の皆様との話し合いが必要だが、伏木中学校の現在地は古府小学校区、伏木小学校区、太田小学校区から通っている実態がある。小中一貫教育を1つの校舎でやろうとする際は、10年程度先を見越すと、伏木中学校の校舎に併設する事が1つの具体的な考え方だと思っている。

・太田から伏木は遠い。汽車の時間に縛られる事で苦労した。こらからの子供たちはどうやって伏木の小学校まで来るのか。太田地区は氷見市の宮田小学校、西條中学校の方が近いため、そこへ行くという事でも良いのではないかと。

⇒先行事例として、福岡小学校においては通学バスを福岡町時代から配置している。必要になった地域にはバスの配置を検討し、皆様と話をしながら、子供たちが通いやすい環境を作る事が基本と考えている。氷見市の近い学校に通うという意見については、過去の話し合いで、同様な意見が地元からあったと聞いている。氷見郡から高岡市と合併し、市内の伏木中学校区でともに学んできた歴史を大事にしたい。本当にそれが良い事か皆様もよく考えていただきたい。

・太田地区は特殊性がある。小学校はコミュニティの中心であると考えている。3校が統合すれば場所は当然伏木だと聞かれるが、それはそれで良い。ただし、どこに学校を建てようとも公平性は保っていただきたい。同じ税金を払っている住民として、太田の特殊性を考えて欲しいし、建設する場所については出来る限り公平性を保ってほしい。

・古府地区については、城光寺の低学年の子供たちは中学校の場所まで通学するとなると大変だと思う。小学校低学年が雨でも安全に通学できるようにしてほしい。

・統合についてはもっと推進すべきと考えている。もっとスピードを上げて取り組むべきと考えている。課題は移動手段であり通学バス等のきめ細かい運用が必要と思う。そこで、高齢化が進み、買い物難民や病院通い等、移動手段がない高齢者の問題について、バス運用と絡めて一緒に考える事は出来ないか。そのような考えは持っているのか。持っていなければ考えて欲しい。

・われわれの世代では、中学校時代1学年12クラス、全体で36クラスあったため、今回中学校に3小学校が入ったとしても、それを受け入れる事は可能であると考えている。また、各小学校には伝統があるため、どこかの小学校に統合となると角が立つと思う。伏木中学校へ3小学校が統合し、小中一貫教育という新しい取り組みを積極的に行う事がこれからの伏木が進むべき方向と思っている。通学問題については、通学距離が遠くなる小学校低学年の子供たちを考えると心配だが、通学可能な距離について教育委員会で考えていただけたらと思っている。また、先ほどスピード感を持ってという意見がでたが、個人的には10年とは言わず、6年後を目途に統合に進むべきと考える。

### ■五位中学校区【平成 30 年 12 月 22 日】

・施設一体型の小中一貫教育ということだったが、施設一体型とは具体的にどういった形になるのか。⇒予定地は五位中学校の隣接地で、まずは隣接型の小中一貫教育を行う。校舎は統合小学校としてまずは建設する。グラウンドも小学校として整備する。その中で隣であるから行き来して連携をする。中学校は耐用年数がきたら小学校と一体型の校舎の建設を進めたい。

・子どものいじめ問題のニュースをよく聞くが、小学校が合併することによっていじめ問題が出てくる可能性もある。校区を変えることは出来ないのか。

⇒基本的にはそれぞれの校区があるので、それぞれの校区に通っていただく。個別の事例でいじめがあった場合は、保護者の意向等を含めて適切に対応する。課題が生じれば学校、講師、カウンセラー、警察、関係の皆さんに集まっていただいて、ケースワークという形で個別に取り組んでいる。課題が生じやすいところは先回りして手当てしているところである。全国である悲惨な例はあってはならないことであるので、これからもしっかり取り組んでいきたい。

・先行して石堤小と東五位小が一緒になるということで、校名がどうなるのか、色々な準備が間に合うのか、みんなが心配している。その点はどうか。

⇒一貫教育を行う場合、小学校と中学校の名前を同じにする例が全国的に多い。さみさと小学校など、全く違った発想の学校名もある。新しい学校の校名・校章・校歌について、皆さんからご意見を伺いたい。

### ■中田中学校区【平成 30 年 12 月 23 日】

・先ほどの義務教育学校と小中一貫校の説明では、義務教育学校は校長が 1 人、小中一貫校はそれぞれ 1 人とあったが、小中一貫校でそれぞれに学校目標を立てる場合、その目標は小学校と中学校で同じ方向性となるのか。また、義務教育学校の場合、小学校の卒業式や中学校の入学式はどうなるのか。

⇒義務教育学校は、校長が 1 人で 9 年を統括していくスタイルであり、小中一貫教育校は小学校 6 年と中学校 3 年は基本的に残しながら一貫して 9 年を教育し、校長はそれぞれにいる。両校長が協議し 9 年間の時間割りをつくることになる。義務教育学校は 1 人の校長が責任をもって 9 年間の時間割りをつくることになり、そこが大きく違うことになる。従来の小学校 6 年のくくりと中学校 3 年のくくりはしっかり残しながら、例えば前期課程や小学部、後期課程や中学部などの呼称で、6 年と 3 年の区切りは残し、今の小学 6 年生の卒業にあたる前期課程の修了というような節目をつくりたい。

・中田地区の開発推進協議会では 11 月に井口小学校と中学校、氷見の朝日丘小学校と南部中学校へ視察に行ってきた。特に井口小中学校では、先ほど教育長の説明通り、義務教育学校化にむけて研究に取り組んでいる状況である。中田でも義務教育学校という話になれば、先進校の動向を学校の先生だけでなく地域にも教えて欲しい。

・中田がもし小中併設となった場合、中田校区は般若野と中田のふたつの地区があり、般若野から中田中学校へ通うとなると結構な距離がある。バスを利用することは、子どもたちの活動にとって良くないので、通学可能な場所を検討して欲しい。

・国吉が義務教育学校と判断されたわけだが、そのモデルは中田にも将来適応されるのか、中田のみならず高岡市全体がそうになっていくのか。国吉の場合は校舎が隣同士で、教育長が言われたように渡り廊下をつくれれば良いと思うが、中田の場合は施設一体型なのか分離型なのか隣接型なのか聞かせて欲しい。

⇒国吉での義務教育学校の実践をみなさんに見て頂き、然るべき時期に皆さんの意見を聞きながら、学校のかたちを固めていきたい。そのため、校舎は併設型なり一体型なり、可能性はどちらもある。教育委員会としてもこの地域にとってどういう教育が良いか、高岡市全体の視点からも考えて判断し、また教育委員会として市長の理解も得ていきたい。

### ■高陵中学校区【平成 30 年 12 月 25 日】

・小中一貫校については賛成である。良い教師を配置し、一定の規模の中でお互いに切磋琢磨することは教育には非常に重要である。施設については併設型としてほしい。新校舎ができるまでの暫定措置として定塚小学校を使用することはあるかもしれないが、最終的に平米小学校がなくなり定塚小学校が残った、という形になるのは避けたい。高陵中学校に新しい小学校と一体的に整備する方向で、行政の手続きには時間がかかると思うが、可及的速やかに進めてほしい。

・平米小学校耐震化にかけた多額の費用を無駄にしないためにも、施設は有効に活用していただきたい。低学年の子どもたちの負担も考え、通学バスも検討してほしい。もっと IT 化・情報化といった面でも早いテンポで進めていっていただきたい。

・高岡市の中心部である平米小学校中心部の昨今の衰退は著しく、まちの中から学校がなくなることでその衰退に拍車がかかることを危惧している。衰退が進めば次世代で今日とまた同じことが起こるのではないか。まちづくりの観点からの対策を具体的に示していただきたい。

⇒高陵中学校区の歴史や実績を将来につなげていくために、多くの人々が高陵中学校に行きたいと考えるような学校づくりをすることがまちづくりにつながると考えている。

・平米小学校がなくなるのは非常にさみしく思う。高岡の公共施設はどこも古く、保護者の立場では志貴野中学校のような新しい校舎に子どもを通わせたく思うのではないだろうか。平米小学校の児童は定塚小学校へ通うこととなるのか、成美小学校や川原小学校に通うこととなるのか伺いたい。

⇒今回の学校の再編統合においては、一方に吸収されるというのではなく全く新しい学校を作り上げていくと考えていただきたい。冒頭に説明した通り、12の中学校区については今後10年間現状を基本とした学校運営を目指しており、それぞれの校区で小中一貫教育を進めていきたいと考えている。

### ■戸出中学校区【平成30年1月11日】

・今回の教育方針を進めれば、教育環境が良くなるという事であれば、スピード感を持って進めていただきたい。進むにつれて、全体像、スケジュール、跡地活用、子供の通学等、具体的な課題が出てくると思う。保護者、地元住民と十分に話をし、進めていただきたい。

・説明をいただいたが、小中一貫教育についてピンと来ていない。また、戸出地区については小中一貫について強化されていくのか。教えていただきたい。

⇒小学校と中学校の教員が相互に行き来する事により、子供たちを連続して支援する事を目指す仕組みである。高岡市全体の中で実践をしていく。

### ■志貴野中学校区【平成31年1月15日】

・学校の再編は中学校区を基本とするとのことだが、中学校区の変更はしないのか。志貴野中学校は成美小学校区にあるが、入り乱れているように感じる。

⇒通学区域の区割りについて、一部で偏りがあるということは認識している。校区の区割りは自治会、町内会とリンクしており、自治会等の区割りにについても議論するとなると、まとまらなくなるという事態も想定されることから、現在の12の中学校区を基本としている。

・万葉小は志貴野中と川を挟んでいるが、小中連携をどう進めるかを聞きたい。施設一体化をすることはあるのか。

⇒万葉小と志貴野中は確かに距離があるが、連携教育には分離型という考え方もあり、距離が離れていても教員が行き来することで小中連携教育を実現することは可能である。専門的な教科に関しては、専門の教員を万葉小に配置することで対応することも可能である。

### ■福岡中学校区【平成31年1月17日】

・先進地の視察をした際に京都の学校を見に行った。地域の皆さんが集まって、学校運営に関して非常に熱心な協議をしており、かつ、それが組織的に行われており、今から10数年前のことであるが非常にびっくりした。文部省が最近になって地域の学校に関する運営の拠点を作るような形で、コミュニティスクールを打ち出して、全国的に推進していくということをやっているように思う。北陸では少ないらしいが、富山市は小中で6校ほど指定して、それをやっていると聞いている。高岡市は全然ないので、これからもやる気はないとみているが、これについてはどうか。

⇒どちらかというと都会中心にコミュニティスクールが普及しているが、コミュニティスクールに代わるものとして、地域の皆さんの関わりが大変深いということ、もう一つはPTA活動、保護者会、育友会の活動が他県に比べて積極的であることの中で、学校と地域、保護者の連携が富山県の場合は他県より比較的優れていたのも、新しい制度を採り入れなくても国が求めているような状況が出来ていたことがある。高岡市はコミュニティスクールについて無関心なのか、ということについては、ぜひ進めていきたいという風に思っている。

・小中一貫になったときに人間形成的にどういった影響が出てくるか。ステップアップがある。小も中も一緒だとなったときにどのように変化するか心配している。

⇒心配されることは、小中一貫教育となると区切りがないことである。全国の先進事例をみると、中学生は小学生に対してお兄さんお姉さんとして接することになり、色々な配慮が出来るようになる。また、小学生は中学生を身近に感じるができる。中学生になったらこうしたい、部活でこんなことをしたい等、モデルとして思い描くことができるので、中学生にとっては小学生と交流して教えることができ自信が出てくるし、自分もまた勉強しなければと思うようになる。小学生は中学生に憧れて、また頑張ろうと思うようになる。効果が出てくると聞いている。小学校から中学校へ新しい環境へ行くことにより頑張れる等のけじめの問題については、我々としては小中一貫教育、例えば施設が一体となったとしても、小

学校の6年間、中学校の3年間はしっかり区切りをつけたいと考えている。その中で9年間連携をしていく。

### ■南星中学校区【平成31年1月23日】

・南星中学校区の統合については、どのような計画であるか。

⇒生徒数が減少すると、一定規模を保つための方策が必要になってくると考える。逆に、増加した場合には、博労、木津、南条のバランスをみながら、今後10年以上先になったときは、検討しなければならない状況が出てくるかもしれない。ただ、現状においては今のままで十分な教育が出来ると考えている。逆に皆さんのほうでご心配やお考えがあるようであれば、お聞かせいただければ大変ありがたいと思っている。

・小学校で英語やプログラミングに力を入れていかなければならないという話があったが、例えば高齢者であってもプログラミングをやるような方がたくさんおられると思うので、そういった方を活用したことを考えていけないのか。お年寄りともっと交流するようなことを企画できないか。

⇒我々もぜひそれは望むところであって、地域の皆さまに学校の授業に出ていただき、授業は免許が必要になるが、ぜひその支援をしていただければありがたい。積極的に入っていただけるような環境づくりをしたい。

### ■芳野中学校区【平成31年1月28日】

・小中一貫教育を推進することについては賛成である。小学校の統廃合を機に小中一貫教育を進めていきたいことはわかる。子どもたちの今後につながる教育を受けることは是非してほしい。地域でも応援しなければならないが、下関や野村、二塚は現状のまま一貫教育をすることになる。中学校には一貫教育を推進する上で必要な人材が速やかに配置されるものと理解している。26校ある小学校を19校に統廃合すると新聞にあったが、学校によって建設年度が異なり、統廃合を進めていく中でこちらの3校も建て替えるの時期をむかえるが、どのように考えているのか。統廃合しても野村や下関よりも小規模の学校があり、そのようなところとは格差が生じるのではないか。

⇒小中一貫教育を進める際に中学校の教員を小学校に乗り入れて授業を行うほかに、中学校の英語の専科教員がある小学校に籍を置いて複数の小学校を担当するなどの工夫をしながら、英語やプログラミングの成果を上げていきたいと考えている。芳野中学校区では3小学校がそれぞれ中学校と常に連携をとる中で芳野の学習スタンダードをつくり、共有することによって意識をもって児童を育てていきたい。しかし、乗入授業には学校間の距離や時間が影響し、下関であれば行き来しやすいが、野村や二塚だと距離や時間の壁が生じる。そういうことに対しては、専科教員を小学校に配置するような工夫をする必要がある。距離があることによりできないこともあるが、市全体で工夫をしながら一貫教育や連携教育を進めていきたい。

・野村は外国籍の児童も多く、教員の方には苦勞を掛けている。今後も外国人就労が増えることが見込まれる中で、教育委員会としてどのように考えているのか聞かせて欲しい。

⇒外国籍の児童に対する日本語指導に対する相談員の配置は、県の費用も活用し、市単独でも手当てをしてきている。外国籍の多い野村や成美、牧野については多言語による対応が必要で、多言語に長けた専門員により手当てをしている。国の施策に伴う教育的支援の問題として国や県に対して要望していきたい。

・中学校の再編も検討して頂きたい。中田や国吉では川を越えての統合なども、知恵を出しながら進めて頂きたい。また、公共性のある施設は教育委員会だけで決めるのではなく、まちづくりである都市整備を担当するところを交えて決めて頂きたい。

・野村小学校区でも芳野中学校まで歩くのに非常に距離がある場所がある。中学校にこだわりはないが、人数が多過ぎるので隣の高陵中学校に行っても良いのではないかと思うが、いかがか。

⇒通学距離の問題、通学区域の検討は、再編統合も含めて地域の方の理解があって必要な課題である。できるとすれば弾力化ということで、どちらの学校を選ぶかは保護者と本人で選べる範囲を今後どのように設定していくかだと考えている。学校選択制を極端に入ると地域性がなくなるという課題がある。全国の例では、学校選択制を導入したが再度元の形に戻した例もある。高岡市では極端な学校選択制を導入

する必要は当面ないと考えている。しかし、若干色々な都合から選べる範囲の弾力化や、一部特色ある学校については全地域から選べるような選択の幅を広げる工夫はしていきたい。

### ■牧野中学校区【平成 31 年 1 月 29 日】

・牧野地区は中学校も小学校も 1 つである。似た環境の校区では、小中一貫とされているが牧野地区についてはそれがない。理由は何か。

⇒学校の再編に上がっていないため答申内容に出ていないが、市内全ての中学校区で小中連携・小中一貫教育を進める方針で取り組んでいる。

・富山市で行っている学校選択制についてであるが、これについてどのような議論があったのか。

⇒複数の地域で考えてはどうかという意見をいただいた。一つは国吉で、特色ある学校を作り、市内で初めての義務教育学校であるため、市内全域から通えるようにして欲しいという意見をいただいている。また、芳野中学校は生徒が多く、高陵中は生徒が少ないため、高陵中を選択できるような方法を考えて欲しいという意見もいただいた。全国にも学校選択制を導入しているところはあるが、良い面ばかりではない。全国の事例では、地域性が薄れ、地域としての学びや育ちが薄れてしまい、学校選択制をやめたという事例がある。選択制については皆様の意見も聞きながら慎重に対応する必要があると考えている。

・小中一貫教育の懸念事項として、人間関係の固定化や、中一ギャップから高一ギャップへ先送りしただけではないかとも感じる。多感な時期に人間関係を固定化するのは成長を阻害する部分もあるので、多様な人材と触れ合うような機会が必要と考える。子供が減っていくという事は過去に例のない事なので、その事を踏まえながら、子供たちに刺激を与えるような環境づくりに配慮して欲しい。

・再編により統合小学校になると、広域からの通学になるので、充実したスクールバスの運行が大事だと思う。住みたくなる町、居住人口維持の面からも、充実したスクールバスの運行をお願いしたい。

・教員の乗入については、中学校の先生の負担が大きくなりすぎると言った事はないか。

⇒教員の負担については、全国的に課題となっている。教員一人当たりの授業を行う時間が一定となるように、県と交渉し、先生方の配置に配慮したい。

・牧野大橋通りは、10 年以内には 2 車線化し完成すると思われる。そうなれば能町や吉久地区についても牧野中学校へ通うという考え方もでてくるのではないか。また、牧野中学校は老朽化が進んでいる。近い将来は改築が望まれると思う。その際には、通学エリアを変更し、対岸の子供たちも通えると言った事も考えられると思う。

・学校再編については同感である。むしろ遅きに失したのではないかと思う。高岡市の財政状況が厳しい中で市当局とは入念に話をした結果だと思うが、いつまでも膠着状態とならないよう、教育改革を行っていただきたい。